

チェック!

平成25年度 真庭市決算公表

市で一番大きな財布 一般会計

まずは一般会計から見てみましょう。一般会計とは、教育や福祉、土木といった行政サービスの経費を賄うための会計です。歳入の総額は321億6793万円で、歳出の総額は307億2991万円でした。差し引きをすると、14億3802万円になります。この中には翌年度に繰り越して行う事業の経費も含まれています。その経費を差し引いた残りの11億1530万円が、真庭市の実質的な収支ということになり、数値上では「黒字」ということになります。しかし、黒字になっている決算の中身を見ると、問題点がい

このままでいいの？…それとも…

真庭市の財政

平成25年度の真庭市の決算がまとまりましたので、その概要を公表します。「支出より収入の方が多かったから大丈夫?」「貯金が増えて借金が減ったから将来への備えは万全?」いやいや実はそうじゃない。決算数値から見えてくる真庭市財政の問題点について、まにぞうのポイント解説と一緒に見てみましょう。

くつか隠れています。今回は、「財政規模」「地方交付税」「繰出金」の3つに注目しました。

用語解説

知っておきたい
財政のコトバ

歳入：入ってくるお金 (=収入)

歳出：出ていくお金 (=支出)

自主財源：自治体が独自に調達できる財源

依存財源：国や県などに依存するかたちで調達する財源

地方交付税：地域間の財政力の不均衡を調整し、一定の行政サービスを提供するために国が配分する税

市債：市の借金



総額は300億円超 財政規模はカナリ大きい?

300億円以上ってすごい金額だね。平成26年度の当初予算額を県内の類似団体（産業構造が類似した自治体）で比較したデータがあるんだけど、それを見ると真庭市の財政規模がよく分かるよ。面積が広いと行政効率をよくするのは難しいっていわれるけど、かなり大きな数字…。

市名	人口	面積	予算額	
			総額	1人当たり
美作市	30,362人	429km ²	205億円	67.4万円
真庭市	49,222人	828km ²	315億円	64.1万円
備前市	37,543人	258km ²	184億円	48.9万円
瀬戸内市	38,754人	126km ²	158億円	40.6万円
赤磐市	44,984人	209km ²	180億円	39.9万円
類似団体平均	40,137人	370km ²	208億円	51.8万円

※人口は平成26年1月1日現在

歳出 307億2,991万円

歳入 321億6,793万円

(性質別グラフ)



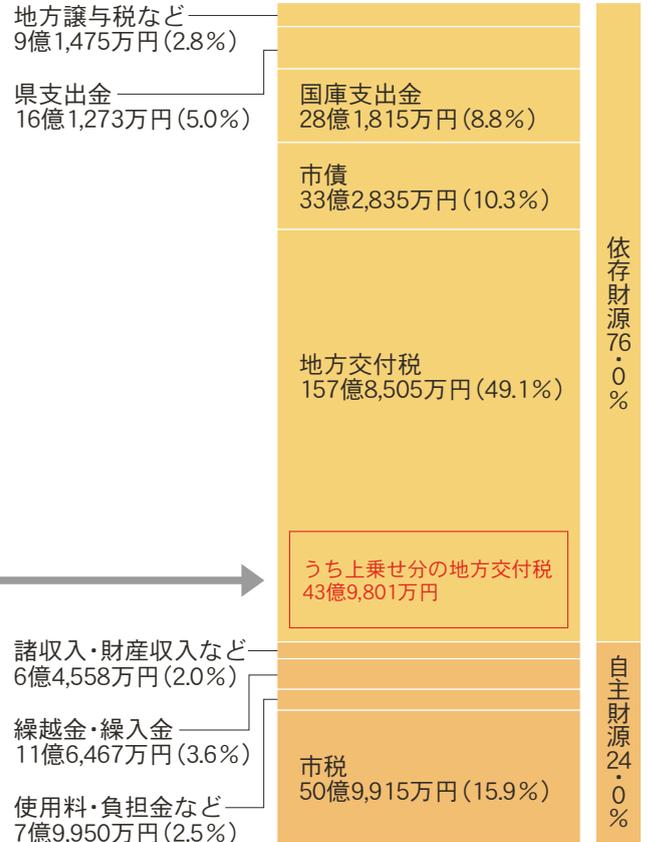
歳出のグラフは2種類。性質別は、人件費などの義務的な支出なのか、公共事業など将来のために投資するための支出なのかといった経済的な性質ごとの分類。目的別は、市がどんな行政目的のためにどれくらいの支出をするのかといった分類になっています。

()内は構成比

(目的別グラフ)



()内は構成比



()内は構成比



6年後にはもうナイ! 地方交付税の上乗せ分

合併した自治体には「合併特例措置」がとられていて、本来の額よりも多く地方交付税が交付されているんだ。でもこの措置は合併後10年間の限度。平成27年度からは5年をかけて段階的に減額されて、平成32年度に上乗せ分はなくなっちゃうんだ。



繰出金ってナニ? 特別会計に出ていくお金

歳出の中には繰出金といって、特別会計に出ていくお金が含まれているんだ。平成25年度だけでもなんと30億円以上。一般会計から特別会計に出ていってどういうことだろう。4ページと5ページに詳しい説明があるので見てみよう。

特定の事業に使うお金 特別会計

特別会計とは、特定の歳入（保険料や使用料など）をもって行う事業の会計で、一般会計とは区別されたものです。真庭市には12の特別会計があり、特別会計全体の決算額は、歳入が157億8383万円、歳出が150億6226万円となり、黒字です。その概要と一緒に、「繰入金」の行き先を追ってみましょう。

特別会計の決算額一覧

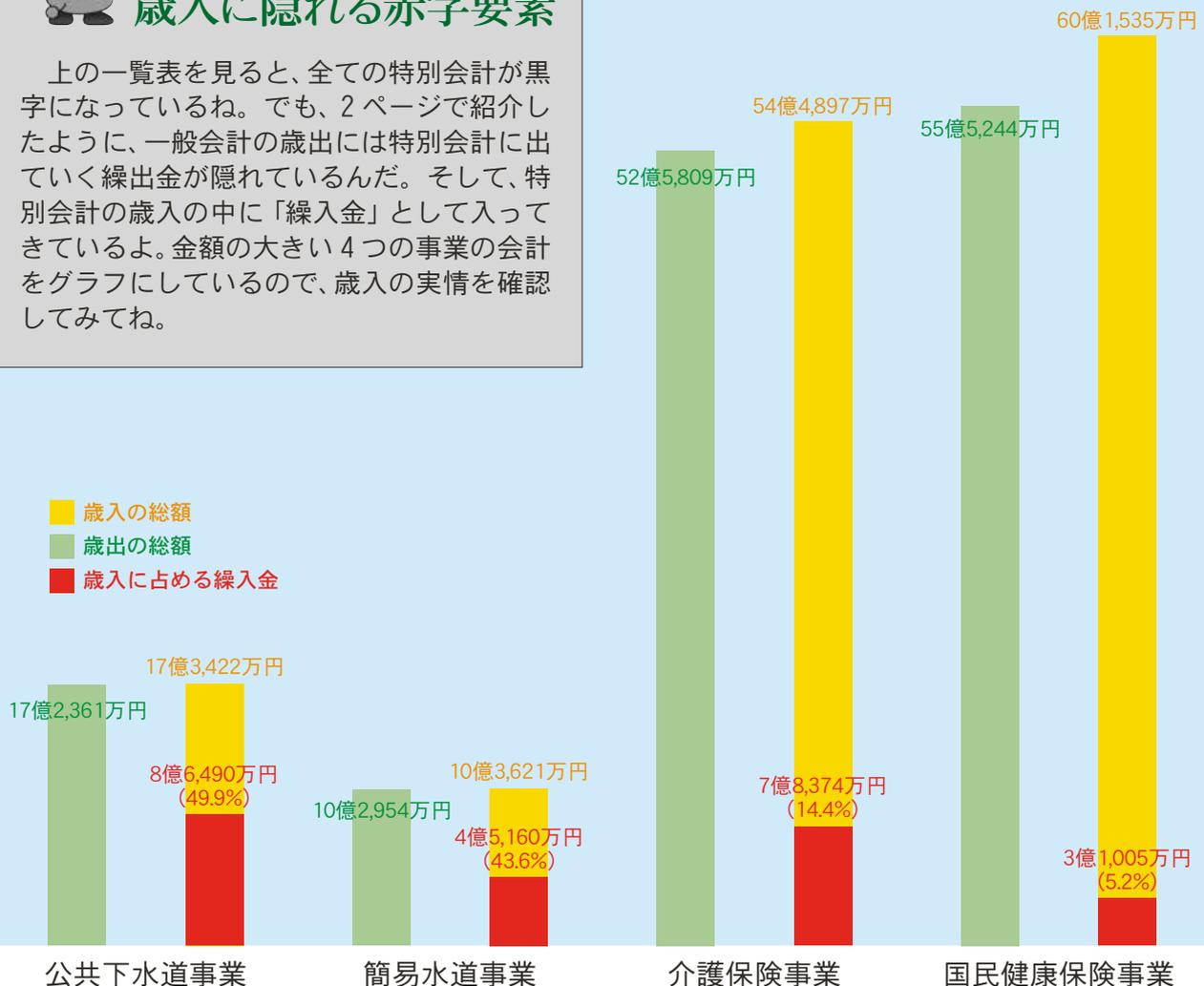
会計名	歳入額	歳出額	差引額
国民健康保険事業	60億1,535万円	55億5,244万円	4億6,291万円
後期高齢者医療	6億6,316万円	6億6,251万円	65万円
介護保険事業	54億4,897万円	52億5,809万円	1億9,088万円
介護保険事業 (介護サービス事業)	6,566万円	6,356万円	210万円
簡易水道事業	10億3,621万円	10億2,954万円	667万円
公共下水道事業	17億3,422万円	17億2,361万円	1,061万円
農業集落排水事業	4億5,581万円	4億5,220万円	361万円
浄化槽事業	1億3,980万円	1億3,842万円	138万円
分譲宅地事業	7,499万円	4,343万円	3,156万円
津黒高原観光事業	3,349万円	3,339万円	10万円
クリエイト菅谷事業	925万円	925万円	0万円
温泉事業	1億691万円	9,581万円	1,110万円
合計	157億8,382万円	150億6,225万円	7億2,157万円



黒字じゃない？ 歳入に隠れる赤字要素

上の一覧表を見ると、全ての特別会計が黒字になっているね。でも、2ページで紹介したように、一般会計の歳出には特別会計に出ていく繰出金が隠れているんだ。そして、特別会計の歳入の中に「繰入金」として入ってきているよ。金額の大きい4つの事業の会計をグラフにしているので、歳入の実情を確認してみてね。

■ 歳入の総額
■ 歳出の総額
■ 歳入に占める繰入金



農業共済事業会計

収益的収支(共済事業)	
共済事業収益	2億4,157万円
共済事業費用	2億4,033万円
差引額	124万円
資本的収支(施設建設などの収支)	
資本的収入	0円
資本的支出	0円
差引額	0円

湯原温泉病院事業会計

収益的収支(経常収支)	
病院事業収益	15億1,255万円
病院事業費用	14億5,356万円
差引額	5,899万円
資本的収支(施設建設などの収支)	
資本的収入	1億9,980万円
資本的支出	2億7,783万円
差引額	-7,803万円

水道事業会計

収益的収支(水道料などの収支)	
水道事業収益	6億2,978万円
水道事業費用	5億6,252万円
差引額	6,726万円
資本的収支(施設建設などの収支)	
資本的収入	2億4,910万円
資本的支出	5億8,590万円
差引額	-3億3,680万円

公営企業会計とは、自治体でも収益が認められている事業の会計です。真庭市では、水道事業、湯原温泉病院事業、農業共済事業の3つがあります。

※資本的収支額が資本的支出額に対して不足した額については、損益勘定留保資金などで補てんしています。



基準外の繰出金ってナニ？ 基準を超えると赤字補てんに

一般会計からの繰出金(公営企業会計の場合は補助金)は下の表のとおり。公共下水道事業の場合だと、下水管の埋設や処理場の建設などで多くの費用が掛かっているほかに、雨水の処理費用といった経費も発生しているんだ。こういった経費は使用料だけじゃなくて税金でも負担すべきだよ。繰出金は、こういった加入者や利用者の負担だけでは賄いきれない部分を補うもので、国がその基準を示しているんだ。だから、公共サービスを維持していくためにはある程度はやむを得ない支出。でも、国の基準を超えて繰り出すと、その部分は実質的な赤字補てんになっちゃうんだ。昨年度に比べて繰出金の総額は減っているけど、赤字になる部分がこんなにあるんだね。

一般会計から特別会計への繰出金一覧

会計名	平成25年度	対前年度増減比	うち基準外
国民健康保険事業	3億1,005万円	-11.1%	-
後期高齢者医療	2億3,986万円	-1.4%	-
介護保険事業	7億8,374万円	-2.4%	-
介護保険事業 (介護サービス事業)	4,011万円	6.7%	-
簡易水道事業	4億5,160万円	-15.8%	6,625万円
公共下水道事業	8億6,490万円	3.5%	3億4,667万円
農業集落排水事業	2億9,750万円	-5.7%	1億2,764万円
浄化槽事業	5,750万円	12.7%	5,750万円
分譲宅地事業	911万円	70.5%	911万円
津黒高原観光事業	3,339万円	-37.6%	3,339万円
クリエイト菅谷事業	925万円	-59.6%	925万円
温泉事業	-	-	-
合計	30億9,701万円	-4.5%	6億4,981万円



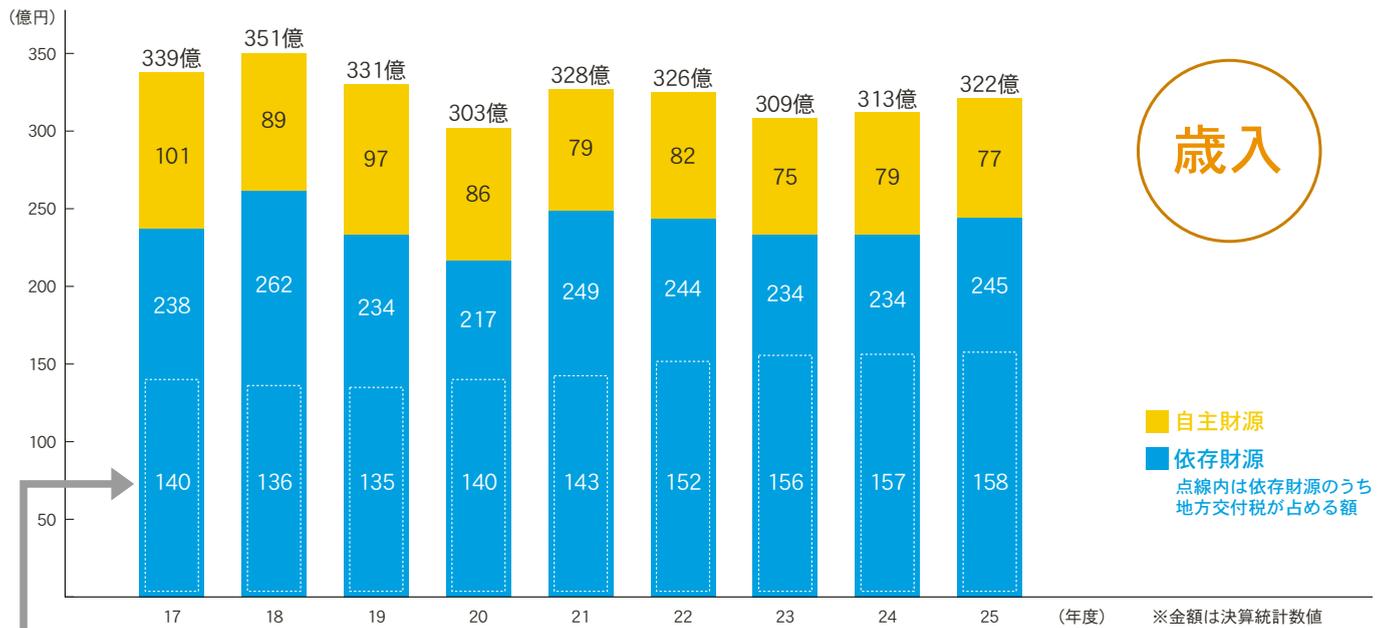
下水処理場の建設や管理にはたくさんお金がいるんだね



一般会計から公営企業会計への補助金一覧

会計名	平成25年度	対前年度増減比	うち基準外
水道事業	1億3,172万円	-12.4%	-
湯原温泉病院事業	3億3,410万円	-8.1%	1,108万円
農業共済事業	5,290万円	-12.0%	-
合計	5億1,872万円	-9.6%	1,108万円



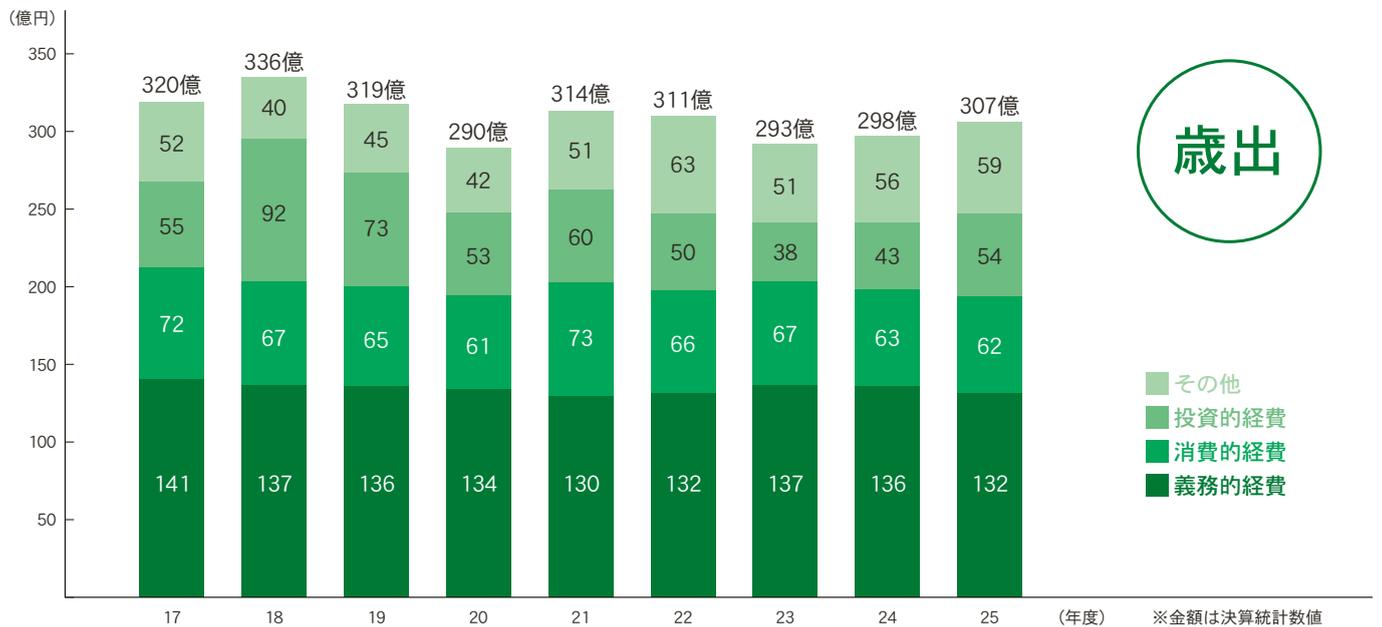


歳入

このままで大丈夫？ 交付税への依存体質

地方交付税への依存度が増しているのが真庭市財政。国では、交付税の算定方法の見直しをしていて、合併特例措置の終了後の負担は少し軽減されるみたい。だけど、それでも平成32年度の収支では約10億円の収支不足が見込まれているんだ。この依存体質を改善しないと。

平成17年度から平成25年度までの一般会計の決算状況をグラフで表しています。歳入は自主財源と依存財源に色分けしていますが、全体の約75%を依存財源に頼っている状況が続いています。一方、歳出は性質別に見ると、人件費や公債費(借金の返済)などを含む義務的経費が、少しずつですが減っています。また、平成25年度は投資的経費が増えています。これは消防救急デジタル無線整備、中学校施設整備事業などを実施したことが主な要因です。



歳出

自治体の財政状況を分析するための指標が財政指標です。左の図では平成24年度と平成25年度の数値を比較しています。「経常収支比率」「実質公債費比率」「将来負担比率」の数値が改善しました。

実質公債費比率 改善

借金返済の負担が大きすぎないかをチェックする数値。市税や地方交付税のような使い道が自由で毎年入ってくる収入のうち、公債費(借金返済額)の割合を表したもの。数値が小さいほど負担が軽いこととなります。

H24 12.8 → H25 11.9

財政力指数

文字どおり財政力の強弱を示す数値で、毎年の行政活動に必要なお金をどのくらい自治体が自力で調達できるかを表したもの。数値が大きいほど自主財源の割合が高く、財政力が強い自治体ということになります。

H24 0.309 → H25 0.309

将来負担比率 改善

真庭市が借りた借金、契約で損失補償や将来支払う必要があるものが、市の財政規模の何倍あるのかを表したもの。数値が小さいほど財政に弾力性がある自治体ということになります。

H24 60.1 → H25 33.1

経常収支比率 改善

市税や地方交付税のような使い道が自由で毎年入ってくる収入のうち、人件費や扶助費、公債費といった毎年必ず支出しなければならない経費の割合。数値が小さいほど財政に弾力性がある自治体ということになります。

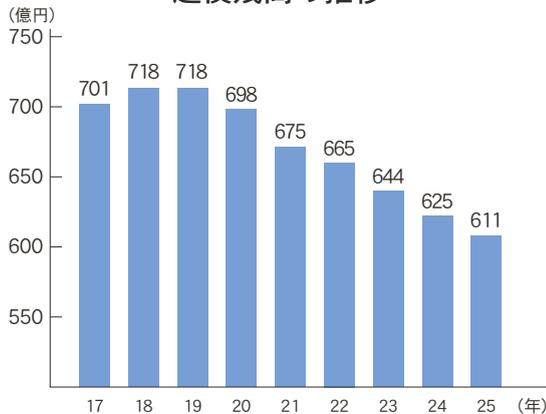
H24 84.2 → H25 82.3



貯金増! 借金減! 財政指標も改善方向でも地方交付税の減額が始まればそれもピンチ?

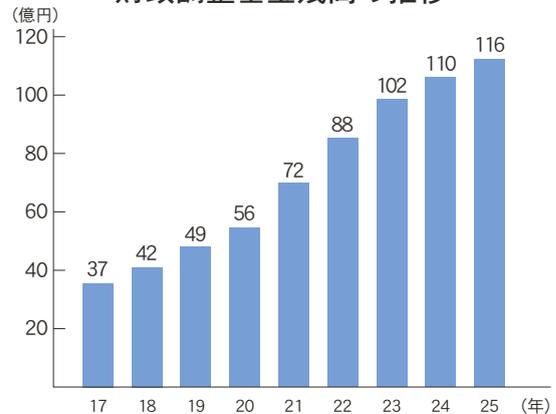
市の貯金である財政調整基金残高は増えていて、市の借金である起債残高は減っているね。財政指標も順調に改善しているようなので、真庭市の財政はおおむね健全といえるかな。真庭市が何年もかけてやってきた行財政改革の成果ともいえるんだけど、やっぱり地方交付税の合併特例措置によるところが大きいんだ。平成27年度からは、この合併特例措置の上乗せ分も減っていくので、財政指標も悪化していくことが予想されているんだ。財源をしっかりと確保していきながら、事業の効率化といった歳出の抑制などにもっと厳しく取り組んでいかないといけないね。

起債残高の推移



市債は公共施設の建設など、一時的にたくさんのお金が必要な場合の借金です。起債残高とは、市が将来返済しなければならない借金の残高を指します。

財政調整基金残高の推移



財政調整基金とは、市が毎年積み立てている貯金のことです。不足する年に取り崩すことで財源を調整し、計画的な財政運営を行うためのものです。

滞納金を効率的に、正当に回収

取り組みを徹底・強化し 滞納額が3年連続で減少

**取り組み強化
滞納額を約8400万円削減**

昨年度、真庭市では滞納整理の取り組みを強化し、滞納金総額を前年度より約8400万円削減しました。しかし、自主財源の中心である市税（一般税・国民健康保険税）の滞納額は約4億9950万円。また、もう1つの自主財源である負担金や使用料、手数料など、市民が市から受けたサービスの対価として支払わなければならない金銭（介護・後期高齢者医療保険料、保育料、水道・下水道・住宅使用料、各種貸付金償還金など）の滞納額は、約3億8910万円で、合わせて約8億8860万円が滞納となっています。税や負担金、使用料などは、厳しい財政状況にある真庭市にとって、さまざまな市民サービスを提供するための貴重な財源。これらを、いかに効率的かつ正当に回収していくかは大きな課題です。

市ではサービスの充実と市民負担の公平性を維持するため、引き続き差押えなどによる滞納処分を取り組みを強化していきます。

**法律に基づいて
税以外も差し押さえ**

税の徴収のためには、「自力執行権」が認められており、市が自ら差し押さえることができます。税以外の強制徴収ができる債権（介護保険料、保育園保育料、後期高齢者医療保険料など）も税と同様です。これらの滞納で担当課が徴収困難と判断した場合、徴収移管により債権回収対策課が差押えを行います。また、強制的に滞納者の住居や店舗などに入り、差し押さえるべき財産を探す「家宅搜索（搜索）」も行います。

**強制徴収できないものは
裁判所を通じて請求します**

強制徴収ができない債権の回収に

滞納整理は市民サービス充実と公平性確保のため
法律と市の方針に従って正しく回収します

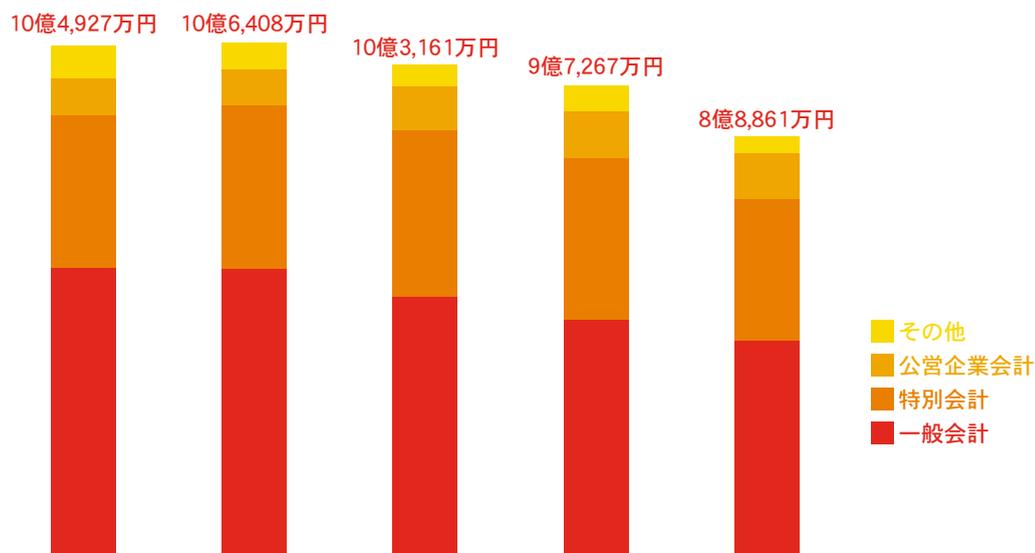
についても、滞納者が納付について誠意を示さず、納付交渉にも応じようとしなれないといった場合には、裁判所を通じて法的な請求（支払督促、訴訟など）を実施します。

**公平性確保のため
延滞金は必ずいただきます**

納期限内に納付した人との公平性確保のためにも、徴収すべき延滞金は必ずいただきます。税の場合今年1月から延滞金の率（年14・6割）は、特例措置適用により年9・2割に変更となりましたが、それでも銀行預金などの利息よりもはるかに高い率です。平成25年度に徴収した市税および国民健康保険税に係る延滞金は、約3522万円（一般税分約1881万円、国保税分約1641万円）でした。



税・使用料などの 会計別滞納金額比較表



区分		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	対前年度増減比
一般会計	市税	4億4,599万円	4億4,213万円	3億8,519万円	3億3,276万円	2億8,639万円	-13.9%
	住宅新築資金貸付金	1億2,955万円	1億3,371万円	1億3,755万円	1億3,914万円	1億4,056万円	1.0%
	市営住宅	2,410万円	2,578万円	2,638万円	2,888万円	2,755万円	-4.6%
	保育料	1,250万円	1,123万円	842万円	684万円	507万円	-25.9%
	真庭ひかりネット	1,177万円	808万円	797万円	568万円	278万円	-51.1%
	奨学金貸付金	689万円	772万円	851万円	838万円	865万円	3.2%
特別会計	国民健康保険	2億5,126万円	2億6,265万円	2億7,512万円	2億5,308万円	2億1,310万円	-15.8%
	後期高齢者医療保険料	146万円	238万円	172万円	215万円	229万円	6.5%
	簡易水道	5,648万円	6,338万円	6,908万円	7,240万円	7,654万円	5.7%
	介護保険	1,082万円	994万円	1,015万円	1,138万円	1,172万円	3.0%
	下水道使用料等	513万円	598万円	728万円	975万円	1,238万円	27.0%
公営企業	温泉事業	484万円	434万円	207万円	201万円	4万円	-98.0%
	水道事業	6,541万円	6,679万円	7,060万円	7,534万円	7,939万円	5.4%
その他	湯原温泉病院事業	1,737万円	1,699万円	1,863万円	2,182万円	2,087万円	-4.4%
	合計	10億4,927万円	10億6,408万円	10億3,161万円	9億7,267万円	8億8,861万円	-8.6%

平成25年度滞納処分(差し押さえ)実績

	件数	換価額
真庭市	335	3,445万円
岡山県滞納整理推進機構	98	715万円
岡山県市町村税整理組合	79	2,659万円
合計	512	6,819万円

市だけじゃなくて、岡山県などと連携を取りながら滞納整理を進めているんだ



組織が一丸となって滞納整理を推進 市税滞納整理対策推進本部会議

真庭市では、市税等滞納整理対策本部会議を毎年開催しています。対策方針に沿った滞納整理を進められるよう、市役所内の組織が一丸となって滞納整理に取り組んでいくための会議で、現状の確認や対策の検討などを行っています。また、利便性の高い納税環境の整備の検討なども行っており、これまでコンビニ収納などを導入しています。(右の写真は10月14日に開催された同会議)

